

小笠原諸島における主な自然再生事業等（環境省関係）

○世界遺産の管理

番号	事業項目	事業趣旨	27年度	28年度以降の予定
1	小笠原諸島世界自然遺産地域における自然再生事業拠点整備の検討	小笠原諸島世界自然遺産地域の管理のために必要な、新たな拠点整備を含めた、ハード・ソフト両面の総合的なシステムを構築するための設計（変更）を行う。	遺産センターの実施設計（変更）運用等の検討 施工	遺産センターの運用等の検討・施工（～H28） 遺産センターの運用（H29～）
2	小笠原諸島世界自然遺産地域順応的管理検討	管理計画を踏まえて、科学委員会や地域連絡会議の運営等により、自然生態系保全の方向性や特定重要課題への対応等について検討する。	地域連絡会議の開催（地域課題WG：新たな外来種防止、オオコウモリ） 科学委員会の開催（下部WG：新たな外来種防止、アノール対策、陸産貝類・プラナリア（予定））	継続

○生態系の保全・外来生物対策

番号	事業項目	事業趣旨	27年度	28年度以降の予定
1	陸産貝類保全対策（調査、域内保全、域外保全）	小笠原諸島全体の陸産貝類の生息状況を調査し、調査結果に応じて、域内保全対策の検討・実施、域外保全の実施などを行うもの。	各島における生息状況モニタリング 父島及び兄島個体群の飼育（室内・野外）	モニタリング及び域内保全の継続 飼育個体数の増加に対する野外飼育技術の確立
2	兄島陸産貝類緊急保全対策	生息状況が危機的である兄島の陸産貝類の絶滅を回避するため、重要保全エリアでのネズミの低密度化を図るもの。	・ネズミの低密度化 ・陸産貝類の回復状況モニタリング ・効果測定、環境影響モニタリング	重要保全エリア外を含む、保全対策の実施
3	ネズミ対策環境リスク検証業務	ネズミ対策に係る過去の事業の実施に至る経緯及び環境影響について、専門家による委員会を設置して検証し、今後の外来ネズミ類対策事業のあり方について助言を頂く。	・第2回～第5回（最終）の検証委員会の開催 ・環境影響の検証のための実証試験	検証結果を踏まえたネズミ対策の実施
4	小笠原地域自然再生事業プラナリア拡散防止対策	陸産貝類の生存にとって脅威となるニューギニアヤリガタリクウズムシ（貝食性プラナリア）の侵入防止を行う。	父島鳥山地域のプラナリア侵入防止柵の維持 父島鳥山地域及び母島でのプラナリア調査 父島での陸産貝類モニタリング	継続
5	新たな外来種対策	新たな外来種の侵入・拡散防止対策のあり方と侵入時の緊急対応のあり方の議論を進める。	外来アリ類及び外来プラナリア類を中心とした行動マニュアルの作成・ブラッシュアップ	必要な情報、技術、体制の確保のため議論を継続。
6	希少昆虫（保護増殖事業）	・カガサラジミ、カガサラハシヨウ、トンボ類の「自然状態での安定的な存続」を目指した対策を検討・実施する。 ・今年度新規指定された種の生息状況を評価し、必要な対策を検討する。	・各種の生息状況調査 ・ハンミョウ、トンボ類の生息環境改善 ・ハンミョウの兄島への移殖 ・ハンミョウの域外飼育（内地、父島）	次期5年間の中期実施計画に基づく対策の実施
7	グリーンアノール防除対策	昆虫類を捕食することによる生態系全体への脅威となるグリーンアノールの防除対策として、兄島、父島、母島でグリーンアノールの排除等を行う。	・兄島でのアノールの捕獲、柵の維持管理、捕食影響調査 ・父島での属島への拡散防止対策の実施 ・母島での希少昆虫重要生息地での防除対策の実施、新夕日ヶ丘での根絶達成のための柵の補強等の実施	継続

8	アカガシラカラ スバト（保護増 殖事業）	「自然状態での安定的な存続」 を目指した対策の検討・実施	・生息状況調査 ・検討会の開催による対策効果の評 価と、対策の進め方の検討 ・連絡会において、事故等の現地ト ラブルの対策実施	継続
9	オガサワラオオ コウモリ（保護 増殖事業）	人間生活とオガサワラオオコウ モリの軋轢を解消し、かつ「自然 状態での安定的な存続」でき る状態を目指す。	・地域課題WGの開催による情報共有 及び課題解決のための保全対策の検 討 ・餌資源確保の試行の継続 ・鳥獣保護区特別保護指定区域の適 正管理	継続
10	小笠原国立公園 ノネコ対策調査	小笠原諸島（父島、母島）の山 域におけるノネコの排除を行 う。	・ノネコ捕獲及び内地搬送までの一 時飼養を継続 ・父島東平におけるノネコ侵入防止 柵の維持管理、母島南崎ノネコ侵入 防止柵の取替工事	父島：平成28年度に 排除達成 母島：平成30年度に 排除達成 を目指し継続。その 後も排除状態の監 視。
11	希少植物（保護 増殖事業）	諸島内の希少植物12種につい て、「自然状態での安定的な存 続」を目指した対策の検討・実 施	・各対象種の5年間の事業実施計画の 策定 ・事業実施計画に基づくモニタリン グ、域内保全、域外保全の実施	継続
12	外来植物対策	希少昆虫類の生息地保全、希少 植物の生育地保全、景観確保の 観点から外来植物駆除を実施	継続	継続

○普及啓発

番号	事業項目	事業趣旨	27年度	28年度以降の予定
1	視察会、観察 会、WSの開催	世界自然遺産の保全事業や課題 が、島民生活との接点が生じて いる中で、地域と連携した世界 自然遺産管理を行っていくため に、まずは、実際に保全対象や 対策の現場を体感してもらうこ とで、島民と共有し、興味を 持ってもらおう。	・兄島視察会の開催（5/6、7/5：村 との共催、次回開催未定） ・母島自然観察会の開催（5/9、次回 の時期未定） ・兄島陸産貝類保全WSの開催（9月 開催予定）	継続

○国立公園の管理等

番号	事業項目	事業趣旨	27年度	28年度以降の予定
1	海岸ゴミ清掃	海鳥、ウミガメの繁殖地保全、 景観美化を目的とした海岸漂着 ゴミの清掃	賀島、父島列島を中心に実施予定	継続
2	海域の水温デー タ収集	海域の保全を検討する上での基 礎情報として、各海域での水温 計測を行い、情報を蓄積	・父島、兄島周辺でのデータ収集の 継続 ・母島でのデータ収集の開始	継続

小笠原諸島における生態系管理に係る実施事業（林野庁関係）

○保護林整備・保全対策

小笠原諸島森林生態系保全センター

番号	事業項目	事業趣旨	27年度	28年度以降の予定
1	固有森林生態系の修復事業	小笠原諸島の固有の森林生態系の修復を目的に、森林生態系保護地域において、アカギ、モクマオウ等の外来種の駆除、在来植生への復元等を実施するとともに、その駆除効果や影響の検証を行う。	父島列島、母島列島において外来植物の駆除、グリーンアノール柵周辺の枝払い等を実施する。	継続予定。今後の進め方についても検討。
2	饅頭岬固有生態系修復事業	土壌流出した箇所の植生回復手法を検討するため、近隣の林分から在来種（タコノキ）の移植及び種子を採取し試験的播種を行った箇所のモニタリングを行う。	モニタリングを実施する。	継続予定。
3	公益的機能維持増進協定による外来種駆除事業	国有林に隣接・介在する民有林の所有者と森林管理局長が「公益的機能維持増進協定」を結び、国が民有林と国有林の一体的な整備・保全を図り、森林の公益的機能の維持増進を進める。	新たな協定が締結できるよう関係者と調整を進める。	一体的な整備を進められるよう順次協定締結を目指す。

○希少野生生物保護管理対策

番号	事業項目	事業趣旨	27年度	28年度以降の予定
1	希少野生動植物種保護管理対策事業	国内希少野生動植物種の総合的な保護管理のため、対象となる動植物の巡視を実施する。	委嘱した自然保護管理員による父島・母島の国有林内の巡視を実施する。	継続予定。
2	東平アカガシラカラスバトサンクチュアリー整備	アカガシラカラスバトの生息環境保全のため、サンクチュアリー内の整備を行う。	外来種の駆除、歩道整備等を実施する。	継続予定。
3	オガサワラグワの試験的植栽	(国研)森林総合研究所林木育種センターとの協定に基づき、オガサワラグワの植栽に関する知見を得るため、父島由来のクローン苗の育苗・植栽を試験的に実施する(調査は林木育種センター)。	父島において育苗・試験植栽を実施し、必要なデータを収集する。	植栽した苗木の保育・管理等を行う。
4	オガサワラグワの生育環境状況調査	現存する生育分布、生育状況等の調査を実施する。	引き続き検討。	引き続き検討。
5	希少野生動植物種アカガシラカラスバト・オガサワラカワラヒワ保護・管理対策調査	アカガシラカラスバト・オガサワラカワラヒワの今後の保護対策を検討するため、母島列島において生息状況の調査等を実施する。	個体識別調査（足輪装着）や人工水場の定期的な点検・清掃、石門におけるノネコの捕獲等を実施する。	継続予定。
6	オガサワラノスリ保護管理対策調査	オガサワラノスリの保護管理対策を検討するため、生息状況及び外来種駆除事業による影響等の把握を行う。	生息・繁殖状況等の情報収集等を行う。	定期的な実施について検討。

○調査・モニタリング関係

番号	事業項目	事業趣旨	27年度	28年度以降の予定
1	小笠原諸島における森林生態系保全管理手法開発事業（林野庁）	地域や島ごとに異なる種間相互関係によって成立する森林生態系の保全・管理を行うため、侵略的外来種の侵入防止の観点から、実践的な森林生態系保全管理手法の開発を行う。	父島列島を中心に種間相互作用を検討する。	継続予定。
2	小笠原諸島森林生態系保護地域指定ルートモニタリング事業	森林生態系保護地域内の指定ルートの適正利用等を検討するため、利用による生態系への影響等を調査する。	父島、母島、鴎島においてモニタリング調査を実施する。	継続予定。

○普及・啓発関係

番号	事業項目	事業趣旨	27年度	28年度以降の予定
1	グリーン・サポート・スタッフによる普及・啓発活動（国有林課）	森林生態系保護地域の保全について、利用者への普及啓発を行う。	指定ルート入口での声かけ等を実施する。	継続予定。
2	森林ボランティア対応	小笠原中学校、小笠原高校その他内地からのボランティアを受け入れ、森林生態系保護地域の外来種駆除を推進する。	一般参加者による「母島ボランティア」、小笠原中学校、小笠原高校、東京農大等のボランティアを受け入れる。	継続予定。
3	小笠原諸島の自然を後世に残すための取組	森林生態系保護地域をPRするフィールドの整備	引き続き検討。	引き続き検討。

平成27年度 主な遺産関連事業（東京都）

○外来生物対策

番号	事業項目	事業趣旨	27年度	28年度以降の予定
1	ノヤギ排除	希少植物の保護ならびに生態系の保全・回復を図るためのノヤギ排除と、ノヤギ排除後の自然環境変化のモニタリング等	○父島：ノヤギ排除とともに、外来植物対策のあり方をあわせて検討 ○弟島：オガサワラグワ稚樹調査、播種試験 ○聳島列島：海鳥や昆虫、植生等のモニタリング ○媒島：谷止めや浸食防止シートなど土壌流出対策の効果モニタリング	父島では継続してノヤギ根絶に向け駆除を実施予定、弟島ではオガサワラグワ個体群補強の取組を継続、聳島列島ではモニタリングの継続、媒島では土壌流出対策の継続
2	外来植物排除	ノヤギ駆除に伴い拡散が懸念される侵略的外来植物の排除	ギンネム（聳島、媒島、兄島、父島（鳥山、巽崎、中山峠））、モクマオウ・リュウキュウマツ（兄島、弟島、父島（巽崎））、駆除試験、ノヤギ排除と外来植物対策のあり方検討	聳島ではギンネム根絶、媒島では残存林の保全、兄島では北西部の自然環境保全、弟島では既実施都府有地のメンテナンス、父島ではノヤギ減少後の影響低減を目指す
3	ネズミ類排除	南島において海鳥等の保護に向けたネズミ排除	モニタリングの継続と駆除の実施予定	モニタリングの継続と再侵入防止に向けた取組の実施
4	ノネコ搬送	捕獲ノネコの搬送、消毒（環境局）	ノネコ内地搬送、ノネコ消毒治療	継続
5	グリーンアノール対策	兄島へ侵入したグリーンアノール拡散防止対策	兄島北西部におけるＣライン設計及び関連自然環境調査、アノールセンサスの実施	Ｃライン整備及び関連自然環境調査、アノールセンサスの継続
6	その他対策	定期船乗船者に対する外来種対策（おがさわら丸、ははじま丸）	上下船時の泥おとし、海水マットの設置	継続

○希少種の保全

番号	事業項目	事業主旨	27年度	28年度以降の予定
1	オガサワラオオコウモリ	保全対策に資する生態情報の収集及び生息環境改善策の検討	夏季行動圏調査、海岸林構成植栽試験等	春季行動圏調査等
2	アカガシラカラスバト	保全対策に資する生態情報の収集と内地個体群の維持	北硫黄島での調査、上野動物公園での飼育繁殖の継続	継続
3	オガサワラシジミ	保全対策に資する生息環境改善と保全施設の整備、運用	都府有地における餌木生育環境の改善及び餌木増殖	継続
4	アホウドリ類	ノヤギ根絶後のアホウドリ類繁殖拡大の促進	聳島列島での標識調査（クロアシアホウドリ、コアホウドリ）、聳島での誘引及び帰巣個体モニタリング調査（アホウドリ）	継続

○利用と保全の両立

番号	事業項目	事業主旨	27年度	28年度以降の予定
1	東京都自然ガイド養成	自然の保護と利用の両立を図る東京都版エコツーリズムを推進する「東京都自然ガイド」の養成	新規講習及び更新時講習の実施	継続
2	東京都版エコツーリズム（南島）	貴重な自然が存する地域として南島、石門を指定し、その自然保護と適正な利用を図る	自然環境調査及び利用状況の把握	継続
3	東京都版エコツーリズム（石門）		自然環境調査及び利用状況の把握	継続

○普及啓発

番号	事業項目	事業主旨	27年度	28年度以降の予定
1	南島外来植物駆除ボランティア	南島を題材として小笠原における自然環境保全対策の必要性に関する普及啓発	外来植物ボランティア作業の実施	継続

平成27年度世界自然遺産関係事業（小笠原村）

○普及啓発事業

番号	事業項目	事業趣旨	27年度	28年度以降の予定
1	村民意見交換会	世界自然遺産の価値観を持続的に維持していくためには、そこに居住する村民とともに遺産価値を保全する施策を実施している。そのためには、行政との連携が重要なことから、遺産保全の取り組み状況の情報や村民が肌で感じている情報を共有し、遺産登録後の様々な課題を村民とともに考えていくことを目的とする。	1月に開催予定	これまでに得られた意見も踏まえつつ、引き続き村民との意見交換の場を設置する。
2	兄島視察会	兄島でのグリーンアノール対策や外来種が自然環境に及ぼす影響を学習する機会を提供し、自然環境の意識の向上及び新たな外来種を生み出さないための知識の共有を図ることを目的とする。	第1回を7月5日に開催（環境省と共催） 参加者：一般村民20名 第2回を1月に開催予定	継続

○外来種対策

番号	事業項目	事業内容	27年度	28年度以降の予定
1	野ネコ・動物診療対策事業	動物巡回診療は年3回実施し、村内の愛玩動物の診療を行うとともに飼い猫の不妊去勢手術及び識別処理（マイクロチップ挿入、ピアス）を施す。	父島 5・8・2月に開催予定	継続
2	東京都獣医師会派遣診療	小笠原村飼い猫適正飼養条例の遵守を推進するため、村内で愛玩動物を飼育している飼い主に対し、適正飼養・終生飼養を普及啓発する事業として、東京都獣医師会の協力を得て、年1回の派遣診療を実施する。	父島、母島 11月に開催予定	継続
3	外来種啓発事業	村民の外来種に対する普及啓発を図るため、村民ボランティアを募集し属島における移入植物及び樹木の除去作業を行う。	属島 実施内容は検討中	継続
4	イヌ、ネコ以外の愛玩動物対策	野外への放逐・定着により生態系への影響を及ぼす恐れのある愛玩動物について、適正な飼養に関する情報整理や普及啓発等、対策の方法について検討する。	9月以降、WGの立ち上げを予定	継続

○オガサワラオオコウモリ農作物被害防除対策事業

番号	事業項目	事業内容	27年度	28年度以降 の予定
1	オガサワラオオコウモリ農作物被害防除対策事業	<p>オガサワラオオコウモリの農作物被害防除に対し、本種の防鳥ネット等に絡まる事故を防止し、農作物を保護するため、文化庁及び東京都の補助を受け、本種に安全な防除策を提示し、普及する。</p> <p>実証試験による安全性等が確認された硬質樹脂製ネットを使用した施設の設置希望者（家庭菜園者を含む栽培者）に対して、施設の設置等を行う。</p>	<p>父島 設置箇所8件 設置面積 1,377㎡</p>	<p>継続</p>